

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 07 月 27 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	楊木 萌

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
姫路セントラルパーク, 姫路, 日本
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
予備実験のためのアフリカゾウの糞採取
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 6 月 28 日
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
姫路セントラルパーク 園長 福重 祥一さま
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本出張では、8 月に予定しているアフリカでのアフリカゾウの生態調査、及び食性調査のためのサンプル採取に関する予備調査を行うため、姫路セントラルパークにご協力いただき、現在当園内に二頭いるアフリカゾウの糞、体毛からサンプル採取を行った。
この日は京都から姫路駅、及び姫路セントラルパークに向かった。休園日で来園客はいなかったが、飼育員の方々がそれぞれの作業を行っていた。開園日には行えない作業もあるため貴重な休園日にも関わらず、アフリカゾウ飼育担当の中村さまには多大な協力をいただき、今回のサンプリングを終えることができた。 当園に到着後、まず前日及び通常時の給餌内容について食材の種類、重量等を飼育員の方から聞き取りを行った。次にゾウの動物舎に行き、糞の採取を行った。残念ながら当日の早朝は強い雨が降り、外で排泄された糞の状態はあまり良くなかった。しかし舎内にて排泄された糞があり、飼育員の方々の協力で糞を外へ取り出していただき、採取を行うことができた。飼育員の方が排糞時の時刻も記録して下さったため、時刻と共に糞の採取箇所を記録した。午後からは晴天となり、日影がない外での作業は過酷なものとなったが、雨天の中では屋外でのサンプル採取は困難であったことから結果として望ましいものであった。現在当園にいる二頭のアフリカゾウは、オスのヒロ(37 歳)とメスのサチ(36 歳)である。二頭とも南アフリカから輸入されたという。メスのアフリカゾウは胃腸の調子が良くないため、消化の良い食物を与えるなど、二頭の給餌内容には多少違いがあった。サンプル採取後はそれぞれの給餌物を見せていただき、サンプルとして数点採取させて頂いた。二頭の尾の毛も実験に用いるため採取させて頂いた。この作業は技術を積んだ飼育員の方しか行えないため、自分は離れたところでの観察を行った。二頭はよくトレーニングされており、飼育員の方が尾から毛を切り取り採取するまで、動かずおとなしくしていた。その後二頭についてのデータを見せてもらい、記録したのち、当園内を少し案内していただいた。どの飼育員の方も親切で、快くそれぞれの担当の動物の説明などしていただき、充実した時間を過ごすことができた。 今回採取した糞、体毛サンプルは後日 DNA 分析、安定同位体分析に用い解析を行う予定である。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図1. サンプル採取を行ったアフリカゾウの糞



図2. 尾の体毛採取の様子

6. その他 (特記事項など)

本出張はPWSの支援を受け行うことができました。真にありがとうございます。
また、サンプル採取を許可していただき、受け入れて下さった姫路セントラルパーク園長 福重 祥一さま、
温かい対応をして下さった獣医師 米澤 彩さま、飼育員 中村 温子 さまに、心からの感謝を申し上げます。